

1 こそあど言葉の使い分けのしかたとしてあてはまるものを、あとのア～エから選んで記号で書きましよう。

- (1) こ () (2) そ () (3) あ () (4) ど ()

ア 聞き手に近いものを指すときに使う。
 イ 話し手からも聞き手からも遠いものを指すときに使う。
 ウ 話し手に近いものを指すときに使う。
 エ はっきりわからないものを指すときに使う。

2 次のこそあど言葉の表の空いているところに、あてはまるこそあど言葉を書きましよう。

様子	方向	場所	物事	
	(こっち)		この	こ
こんな	(そっち)	そこ	それ	そ
そう	(あっち) あちら		あれ	あ
	(どっち)	どこ	どの	ど

「そあど言葉」2

適切な「そあど言葉」がわかる

月 日
名 前

■ 次の文の () には、□の字から始まる「そあど言葉」が入ります。その「そあど言葉」を考えて、□に書きましよう。

(1) 姉がケーキを食べている。 (そ) は、父が買ってきたものだ。

(2) 「荷物は① (ど) () に置きますか。」

② (こ) () に置いてください。」

①

②

(3) あなたが落としたのは、金のおと銀のおの (ど) () ですか。

(4) 向こう側の建物の (あ) () 窓から、友達が手をふっている。

(5) コンビニは、 (そ) () 角を右に曲がったところにあります。

(6) 九点差を逆転して勝つなんて、 (あ) () ことが起こると思わなかった。

(7) 「ゴールまでもう少しだ。」 (こ) () 考えると、気分が楽になった。





こそあど言葉3

こそあど言葉が指し示す部分がわかる

月 日
名 前

■ 次の文の——線部のこそあど言葉が指している部分に~~~~を書きましよう。

- (1) 駅前えきまえにスーパーまへがあった。私わたしはそこでジュースこを買かった。
- (2) へいの上うへを黒ねこくろが歩あるいている。昨日きのうも黒ねこくろが、
こここを歩あるいているのを見みた。
- (3) 妹いもうとはうさぎうさぎのぬいぐるみぬいぐるみを持もっていて、それそれが大だいの
お気きに入いりだ。
- (4) 学校がっこうのろう下かにかざかってある絵え、あれあれはぼくぼくがかいた
ものものだ。
- (5) 向むこうの山やまを見みてください。ああちが西にしの方角ほうかくです。
- (6) 部屋へやの真中まなかにテてーブルぶるがあり、そこそこに手紙てがみが置おいて
ああった。
- (7) 道みちの向むこうに大おおきな木きがある。ああそこでひひと休やすみししよう。
- (8) 私わたしはここう思おもいます。感かん謝しゃの気持きもちちが大たい切せつだと。





こそあど言葉 4

こそあど言葉が指し示す部分がわかる

月	日
名	前

■ 次の文の——線部のこそあど言葉が指している部分を書きぬきましょう。

(1) サンドイッチとからあげ、ぼくのお弁当にはこれが欠かせない。

(2) 友達が私を呼びに来た。そのとき私は夢中でマンガを読んでいた。

(3) 外は大雨で風も強い。こんな天気の日に出かけるのはゆううつだ。

(4) 向かいに五階建ての白いビルがありますね。ピアノ教室は、あそこ
三階ですよ。

(5) シュークリームよりはプリンが好きなので、ぼくはそっちを食べることに
した。

(6) 姉は確かにそう言った。「将来はうちゅう飛行士になりたい。」と。

(7) 父がとなりの部屋を指さして、「あちらへ行っておきなさい。」と言った。



「こそあど言葉」5

「こそあど言葉が指し示す部分がかかる

月 日
名 前

■ 次の文の——線部①～⑤は、どのようなことを指していますか。文章中の言葉を使って書きまじょう。

放課後、リヨウが公園のベンチに座っているのを見つけて、ぼくは声をかけた。

①「ここにいたんだ。」

リヨウは、ゆっくりとふり返った。

「コウタか。どうしたの。」

ぼくは、少しだけ迷い、でも、思い切って切り出した。

②「あの話、考えてくれたよね。」

リヨウの顔が、明らかにこわばった。

「野球チームにもどる話なら、お断りだよ。」

かたい口調だった。リヨウの③そんな様子を見

たことがなくて、ぼくはとまどった。今までのぼ

くなら、そのままあきらめてしまうとところだった。

でも、④それは絶対にいやだと、心に決めてきたの

だ。ぼくは、一つ深呼吸してから言った。

「リヨウがもどらないなら、ぼくもやめる。」

リヨウが不意をつかれたように、ぼくを見る。

「ぼくがチームにもどらないと、どうして、コウ

タまでやめるんだよ。」

「だってぼくは、リヨウと野球がしたいんだ。」

リヨウは目を丸くして、ぼくを見つめていた。

しばらくだまっていたが、やがて、つぶやくよう

に言った。

「わかったよ……。少し考えさせて。」

「じゃあ、もどってくれるんだね！」

ぼくが思わず声をはずませると、

⑤「そこまでは言っていない。」

ぶっきらぼうな言葉が返ってきた。でも、リヨ

ウの表情は、確かに少しだけやわらいでいた。

①

②

③

④

⑤

